

2026年度研究奨励賞のお知らせ

日本宗教研究諸学会連合研究奨励賞 第7回 申請募集

多様な宗教研究の振興、若手研究者支援のために発足した「日本宗教研究諸学会連合研究奨励賞」制度は、本年度（第7回）も7月1日～8月14日に募集を行います。本連合参加学会の会員であればどなたでも応募可能です。どうぞ貴学会の会員の皆様に広くお知らせくださいますようお願いいたします。

募集要項と申請フォームを[本連合HP](#)からダウンロードし、メールにて申請する方式です。

これまでの受賞者についてもHPをご覧ください。



昨年度の活動報告



グループ発表をする中3生徒

12月21日(日)、立教大学池袋キャンパスにて、公開シンポジウム「分断化する社会の中で対話は可能か～ポスト・ソーシャルメディア時代の社会構築～」が行われ、本校で哲学カフェ経験者の中学3年生・高校1年生の生徒も参加しました。第1部では4名の教員らの講演、第2部では会場の全員で「哲学カフェ」の実践が行われ、大人達に添って哲学対話を体験し、チームの代表としてグループ発表の発表もさせて頂きました。校内の哲学カフェなどにも、この経験をどんどん生かして欲しいと思います。

中高生のシンポジウム参加が[豊島丘女子学園のHP](#)で紹介されました

毎年恒例の日本学術会議哲学委員会主催・日本宗教研究諸学会連合／日本哲学系諸学会連合共催の公開シンポジウムを、昨年度は立教大学池袋キャンパスにて12月21日に開催いたしました。テーマは「分断化する社会の中で対話は可能か～ポスト・ソーシャルメディア時代の社会構築」で、情報環境の変化が生み出した多様性と緊張を抱える社会における対話のあり方を議論しました。多数の中高生・学生が参加しました。本連合からは吉水千鶴子副委員長が司会を務めました。各発題者のレジュメを含む詳細な報告は[本連合HP](#)にてご覧いただけます。

日本学術会議に関して

日本学術会議は今年10月からの法人化に向けて、会員選考制度や組織運営、ガバナンス体制等の検討を進めています。4月に開催された総会では、新たに「日本学術会議憲章案」も検討され、学術の独立性・中立性や社会との対話、国際連携などを柱とする基本理念が示されました。憲章案に対しては加盟学協会からも広く意見を募る予定とのことです。

法人化後は、会員を総会が選任する制度へ移行し、中期計画・自己点検評価などを含む新たな運営体制が導入されます。

お知らせ

貴学会のシンポジウム・パネルを応援します！

本連合参加学会が主催するシンポジウムや学会パネルを、本連合から（運営委員会が審議した上で）共催／後援します。事務局にご申請ください。

本年度の公開シンポジウムは対面で2回開催！

本年度の学術会議との共催シンポジウムは、倫理・道徳教育における古典の活用をテーマとするもの、終末期医療をテーマとするものを2回開催します。先行して哲学委員会の分科会が報告書（「見解」）を発出します。日程が決まり次第HPでお知らせします。

発行

日本宗教研究諸学会連合事務局

office.jfssr2008@gmail.com

このNLは本連合のHPにも掲載しています